

平成29年度3学期終業式式辞

校長 中村 勝年

皆さん、おはようございます。今日は今年度を締めくくる最後の終業式となりました。

いよいよ明日からは春休みです。1，2年生の皆さんは、進路実現のために、春休みは、自分自身の可能性にチャレンジしてもらいたいと思っています。今日はそれに関連したお話をします。

イソップの寓話に「ガチョウと黄金の卵」というお話がありますが、このガチョウが毎日一個ずつ黄金の卵を産むとします。

あなたはたくさんの黄金の卵を手に入れようと思ったらどうしますか？

イソップの寓話では、農夫の飼っているガチョウが毎日一個ずつ黄金の卵を産み、農夫はお金持ちになります。しかし、一日一個の卵が待ちきれなくなり、腹の中の全ての卵を一気に手に入れようとして、ガチョウの腹を開けてしまいましたが、そこには卵はなく、ガチョウは死んでしまいます。

金の卵を手に入れようとしたら、ガチョウに食べ物をあげ、運動させたり、住む環境をよくしたりするなどして、育てていかなければなりません。

このお話で「黄金の卵」とは何を指すかと言えば、目標の達成であったり、将来の成功・成長、仕事や学業、部活動での活躍であったりします。

その「黄金の卵」を得るために、「ガチョウを育てていく」ということは何をすることを指しているのでしょうか。

それは、「目標を達成する能力を身に付ける」ことを指しています。

目標を達成する能力は、知識であったり、スキルであったり、やり抜く力であったり、人とのコミュニケーション力であったりします。

そういう力をつけるために、小さな積み重ねをコツコツしていくと、できることが増えていって、少しずつ自信がついていき、それがやがて心の強さにつながります。

皆さんには、このイソップの寓話のように、目先の成果を追い求めるのではなく、長い目で見て大切なもの、目標を達成する能力を毎日コツコツと身に付けるために努力してください。

そのために、勉強やクラブでの日々のトレーニング、反復練習をしっかりとやって、基礎学力、技を磨いてください。

目標をもつことの大切さについて、昨年度の1学期の始業式には、メジャーで活躍するイチローの言葉を紹介しました。

「ぼくは必ずその日のうちに、自分がやるべき、毎日の目標があるんです。目標を一つクリアすると、また次の目標が出てくる」

これは、皆さんとそう年齢が変わらない19才のイチローが考えていたことです。

このように一日一日、目標をもって生活をする。しかも、その目標は高すぎるのではなく、手に届くものにすることが大事ともイチローは言っています。

昨年度の1学期の終業式の式辞では2010年全国高校野球で沖縄・興南高校は春夏連覇をした我喜屋監督のことについて取り上げました。

監督は部員が成長する秘訣として「普通力」が大事であると言っています。

「挨拶をする」

「早寝早起きをする」

「食事を残さず食べる」

「整理整頓を心がける」

「身だしなみを整える」等々、

普通のことを普通にできるというのは、自分自身を成長させるのです。

皆さんには、普通のこと、当たり前のことを毎日コツコツときちんと積み上げてほしいと思います。

また、卒業式でも言いましたが、人生でなにを成し遂げるかは、「生まれ持った才能」よりも重要なのは、「やり抜く力」「情熱」「粘り強さ」であることを心に刻んでおいて下さい。

絶対に最後まであきらめずに一つのことをやり抜いて下さい。

さて、明日からは春休みで、2年生の皆さんには進路実現に向けて本格的にスタートを切る時期となりました。また、1年生の皆さんも、これから学校を支える中堅の学年となり、勉強に部活にと活躍が期待されます。

勉強も部活も、集中して、質の高い取り組みを行うことが大切です。上達するには「意図的な練習」が必要だと言われています。具体的な上達目標、できれば自分の現在のスキルを上回る目標を設定して集中することが大切です。

この春休みを飛躍の準備期間として、4月には成長した姿でお会いできることを楽しみにしています。

以上で三学期の終業式の式辞とします。